CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

PRINT

開講年度 Academic year	2025年度		
講義コード Course title (Japanese)	021021101		
講義名 Course title(Japanese)	文化人類学Ｂ		
英文講義名 Course title (English)	Anthropology B		
(副題) Course subtitle			
開講責任部署 Faculty			
講義開講時期 Semester(s)	後期	講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour(s)	2	時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	月曜日	時限 Period	２時限
校地 Campus	大行寺キャンパス		

所属名称	ナンバリングコード
	C2-CUA102LJ

担当教員
Lecturer(s)

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer(s)	実務経験の有無 Work experience	所属学部 Department
専任教員	◎ 齋藤　正憲		発達科学科心理学専攻

授業の内容（主題） Course description	文化人類学Aの内容を受けて、対面授業を実施する。 具体的な研究事例を取り上げながら、さまざまな理論について、確認したい。 結果として、他者・異文化と向き合う新しい視座をみつけてほしい。
到達目標 Course objectives	１．研究事例を通じて、文化人類学のさまざまな理論を理解する。 ２．文化人類学の知見を応用し、さまざまな文化的事象を考究できる。 ３．文化人類学的視点から、独自にテーマを設定し、レポートを作成する。
ディプロマポリシーとの関連 Accordance with diploma policy	

◎：非常に強く関連する
〇：強く関連する
△：関連する
空欄：該当しない

①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力	◎
②激変する国際社会の中にあって、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立って将来を展望し、行動できる能力	◎
③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力	◎
④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力	◎

授業計画表
Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	構造主義について①	ネットで構わないので、関連する研究論文を検索し、読んでみてほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第2回	構造主義について②	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第3回	贈与論について	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第4回	風土と技術	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第5回	人種と民族	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第6回	『文化人類学の名著50』①	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第7回	『文化人類学の名著50』②	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第8回	『文化人類学の名著50』③	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第9回	『文化人類学の名著50』④	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第10回	『文化人類学の名著50』⑤	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第11回	ジェームズ・スコット『反穀物の人類史』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第12回	柄谷行人『世界史の構造』	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第13回	フィールドノート①：バングラデシュ、スリランカ、台湾	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第14回	フィールドノート②：沖縄	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。
第15回	コスプレの文化人類学	予習の必要はない。復習として、受講生には講義内容を振り返ってほしい。そのために、４時間の学修を求める。

授業計画コメント Course outline	文化人類学はとても面白い学問だと講義担当者は考えている。そして人間のことを扱うので、個人から社会まで、幅広い領域（おそらくありとあらゆる分野）をカバーしている。そして、その視野は環境、経済、法律、教育にまでをも射程に収めてしまう。文化人類学者・レヴィ＝ストロースが世界の思想を牽引し、構造主義の中心に君臨したのは偶然ではなく、必然だったのだ。文化人類学の入門としての本講義を是非、受講してみてほしい。
授業の進め方 Session plan	本講義は対面形式で行なう。ぜひ、主体的に、取り組んでほしい。
アクティブラーニング Active learning	最終的にレポートを作成してもらう。講義期間中、レポート作成に関する個別相談は随時、受け付けるつもりである。自ら考えることで、文化人類学をエンジョイしてほしいと強く願っている。

授業時間外の学修（予習・復習等） Preparation and review outside classroom hours	最終的なレポートの作成を念頭におきつつ、適宜、学びを進めてほしい。

教科書等
Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

（必ず購入すべきもの） Materials required for sessions	特になし。
参考図書 Reference book(s)	祖父江孝男　1990 『文化人類学入門』, 中公新書. 綾部恒雄(編)　2006 『文化人類学20の理論』, 弘文堂. そのほか、参考文献を適宜、お示しするので、貪欲に読み進めてほしい。

成績評価方法および評価基準
Evaluation criteria

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率% Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点 Assessment criteria	文化的事象を取り上げつつ、そのことについて、文化人類学的に考察してもらう。テーマは自由とするが、詳細な書式等については、追って、指示させていただく。
科目のレベル、前提科目など Level / Prerequisites	特に定めていない。意欲さえあれば、どなたでも、文化人類学の勉強を始めることができる。

UP

ウインドウを閉じる